

## ロータリーの奉仕理念

ロータリーでは **The ideal of service** 奉仕理念という言葉がよく使われます。米山梅吉はポール・ハリスの **The first Rotarian** および **This Rotarian age** の翻訳に当たって、これを奉仕の理想と訳していますが、この表現は現代の言葉として馴染みにくい感じがしますので、奉仕理念という言葉を使いたいと思います。

ロータリーの奉仕理念とは何でしょうか。理念を哲学に置き換えて奉仕哲学と読み替えれば、決議 23-34 に「ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕—**Service above self**—の哲学であり、**He profits most who service best** という実践理論の原理に基づくものである。」と定義されています。すなわちロータリーには **He profits most who service best** と **Service above self** という二つの奉仕理念があることとなります。

**He profits most who serves best** は、アーサー・フレデリック・シェルドンがミシガン大学経営学部のマスター・コースで専攻した販売学を基本として、1902年に自らが設立したシェルドン・ビジネス・スクールで、20世紀の経営学の基本理念として教えていた考え方を、そのままロータリーが受け入れて、ロータリーの奉仕理念として採択したものであり、自分の儲けを優先するのではなく自分の職業を通じて社会に貢献するという意図を持って事業を営めば、結果として継続的な事業の発展が得られるという独自の思考です。ロータリーが他の

奉仕団体と大きく異なる点は職業奉仕であり、職業奉仕を完全に理解するためには、その根底にあるシェルドンの思考を理解しなければなりません。

この原型となった文章は、アーサー・フレデリック・シェルドンが1910年に開催された第一回全米ロータリークラブ連合会で語った **He profits most who service his fellows best** というフレーズであり、この言葉は1911年のポートランド大会で **He profits most who service best** というフレーズに変更されてロータリー宣言の結語として採択されました。

人道的奉仕活動の理念となったもう一つの言葉の原型は、フランク・コリンズが1911年のポートランド大会で語った **Service not self** であり、この言葉はその後 **Service above self** に変化し、これらの二つの言葉は1950年にロータリー・モットーとして正式に採択されました。残念なことには、この **Service above self** は誰がいつどのような意図で提唱した言葉なのかは詳らかではありません。

私の調査によりますと、**The ideal of service** という言葉を最初に使ったのはグレン C. ミードだと思われ、1915年に開催されたサンフランシスコ大会のスピーチの中で「私たちは事業や経済活動の中で同僚に対して高い **ideal of service** を与えることができないだろうか」と述べています。事業や経済活動の中という但し書きが付いていますので、奉仕理念の最初の発想は職業奉仕理念であったことが容易に推察できます。

1918年のカンザスシティ大会で「すべての尊敬すべき事業の基礎と

しての **ideal of service**」という文章が連合会の綱領として採択されましたが、これも尊敬すべき事業の基礎という文章から、職業奉仕理念のことを表しているものと思われます。

ポール・ハリスは 1921 年のエジンバラ大会で「**ideal of service** の表明を通じて、文明水準を高揚し商工業を成功に導く原動力にしよう」というスピーチを行っています。これも対象を商工業にしていることから職業奉仕理念のことだと考えられます。

1922 年にロータリーの綱領が改正されて、「ロータリーの **ideal of service** に結ばれた実業人と専門職業人の世界的親交によって、理解、親善と国際間の平和を増進すること」という文章が発表されましたが、文中の奉仕の理想という言葉は「実業人と専門職業人」という単語に掛っているのでやはり職業奉仕を意味するものだと考えられます。

1934 年にポール・ハリスはデトロイト大会において「たとえ自動車の車輪が円形でなくなったとしてもロータリーの奉仕理念は永久に変わることはない」というスピーチをしており、その後も数多くの著作やスピーチの中で **The ideal of service** という言葉を使っていますが、この奉仕理念についての内容は具体的に述べられていません。

何れにせよこの年代においては、ロータリーの奉仕理念とは職業奉仕の理念すなわち **He profits most who serves best** を指していたものと思われますが、その後奉仕の対象が人道的奉仕活動にシフトされるに従って、奉仕理念の意味も変化してきます。

1937年ニース国際大会において RI 会長ウイル・マーニア Jr は「誰かが奉仕理念とは、他人のことを思い遣り他人のために尽くすことだと定義しました。他人のことを思い遣り他人のために尽くすことを通じて、ロータリアンは自らの職業の規範を高めながら、国際理解と親善と平和を推進するために自らの地域社会に役立つように努力しています」と述べています。誰が最初に「他人のことを思い遣り他人のために尽くす」という表現をしたのかは不明ですが、この説明は明らかに人道的奉仕活動を指すものと考えられます。

チェスレー・ペリーは 1954年3月にタルサ・クラブで講演して「多くのロータリークラブが夫々の地域社会で行なっている社会奉仕活動の素晴らしい業績に加えて、ロータリー運動は全体として、ロータリーの会員になる人だけではなく、人類全体にわたって、他人のことを思い遣り他人のために尽くすという **ideal of service** が受け入れられ、実行されて行くものと信じています。」と述べています。

また、1955年11月にコネチカットで行われたインターシティ・ミーティングで、チェスレー・ペリーは、「ロータリアンは人類すべてが他人のことを思い遣り他人のために尽くすようになるまで、超我的奉仕の活動に参加するように説得すべきです。」と述べています。

これらのスピーチからはロータリーの **ideal of service** は他人のことを思い遣り他人のために尽くすことすなわち **Service above self** を指していることがうかがえます。現在は公式名簿 (**Official Directory**) の最終ページの記載されている **brief history of Rotary** に **The ideal of service** とは、他人のことを思い遣り、他人のために尽くすこと

which is thoughtfulness of and helpfulness to others という解釈がつけられています。

ロータリー運動から職業奉仕の理念が徐々に希薄になり、人道的奉仕活動一辺倒になるに従って、ロータリーの奉仕理念の意味するところも変化するようです。

2009.7.10